

# やまぼうし通信

## やまぼうしBCP講習会

2023年9月15日(金) やまぼうしBCP講習会を平山台健康市民支援センターで開催しました。



講師はインダストリアル・ハイジニストの亀井 太(カメイ マサル)氏で、やまぼうし各事業所の責任者をはじめ多くの方が出席されました。亀井氏はかつて公務に携わっていて、阪神大震災と東日本大震災の両方で、災害発生時の初動体制から、災害復旧施策の実施までの各プロセスを経験されている危機管理のスペシャリストです。

講演内容はご自身の経験に基づいて、災害発生に備えて何を準備しておくべきなのかを平易な言葉で解説したもので、やまぼうしの現場で進めるBCP(事業継続計画)の構築に寄与するものでした。

「天災は忘れたころにやってくる」これは物理学者であ

り、夏目漱石門下の随筆家としても高名であった

寺田寅彦の言葉です。私たちは過去に大地震や水害を

経験していますが、平穏な日々が続くとなぜかそれを

忘れてしまう傾向があります。悪いことは起こらない方

がよいという願望、縁起の悪いことには触れないほうがよいという無意識の力が働くせいかもしれません。



BCPとは、Business Continuity Planの略で、法人や企業などが「自然災害や感染症など緊急事態が発生した際、重要な事業を継続させること、もし中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方法や体制を示す計画」のことです。大きく分けて以下の内容が含まれます。

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| (1) 人的対応・コミュニケーション | (2) 施設面での対応         |
| (3) 飲料、食料の対応       | (4) 短期的対応 (5) 長期的対応 |



災害の程度と発生する時間帯にもよりますが、やまぼうしの活動領域を考えた場合、日中活動部門とグループホームでは少し対応が異なるかもしれません。日中活動部門の場合は、利用者がある時間帯であればまず安全を確保した上で、可能な限り帰宅の手配をし、職員と家族の安否確認をして事業再開の日取りを決める流れになります。緊急時の用具・備蓄品の確保も含まれます。

一方、グループホームでは、災害発生と同時に利用者の24時間見守り体制に移行することが予測されます。職員は被災者であると同時に保安要員として、次の方が出勤可能になるまでそこにとどめる必要があります。



このように事業所の特性によってBCPのあり方が変わる部分はありますが、やまぼうし全体のBCPは本部を危機管理の司令塔と位置付けて一本化されたものが望ましいとのことでした。

災害が発生したときに「作っておいてよかった」と思えるような実効性のあるBCPを作成し、毎年の避難訓練等で改善を重ねて、備えあれば憂いなしといえる万全の体制を作りたいと思います。

認定NPO法人やまぼうし 理事 菊池益生

# 帰ってきた！やまぼうし BBQ 大会

11月3日文化の日 4年ぶりに ゆぎむら牧場にて BBQ 大会が開催されました！

